

国の動きとの整理

1 国の有識者会議による中間とりまとめ報告書(R元. 5. 23)のポイント

九州創生の現状分析

第1期 <検証結果>

【主な論点】

現状課題

人口減少と少子高齢化の進行

・国内の人口の減少と少子高齢化は依然として深刻な状況であり、取組の強化が求められる

→ 実施 (◎)

東京一極集中の継続

・東京一極集中に歯止めがかかるような状況とはなっていない
・東京圏への転入超過数の大半は若年層、近年は女性が増加傾向

→ 実施 (◎)

第2期

<基本的な考え方>

全体の枠組み 地方創生は息の長い取組、現在の枠組みを第2期においても継続すべき

→ 第1期の「しごと」起点の好循環だけでなく、「まち」「ひと」「しごと」どこからでも創生を図ることが重要

重点的に取り組むべき事項

(1) 東京一極集中の是正

地方と東京の連携・補完、地方大都市の機能強化 …… 国の動きを注視 (△)

(2) 関係人口の創出・拡大
人材・組織の育成

都市と地方の双方向交流、将来的な地方移住者の増加
地域商社、NPO等の取組支援、高等学校のハブ化

→ 実施 (○)

(3) Society5.0の実現
地方創生SDGsの推進

未来技術の活用は地方においてこそ求められる
SDGsの考えを地方版総合戦略に取り込み

→ 実施 (◎)
→ 夏季セミナーで実施 (○)

(4) 地域経済・社会の活性化

生産性・収益性の高い産業形成、若者の活躍環境

→ 実施 (○)

(5) 個々人希望の少子化対策

地域ごとのオーダーメイドの少子化対策

→ 実施 (◎)

(6) 誰もが活躍する社会の実現

女性・高齢者・外国人等が活躍できる社会

→ 実施 (◎)

2 九州創生の現状・課題 (独自分)

[人口移動]…人口移動の影響、九州・山口の社会増減、高卒就職者の圏域外就職率、九州・山口の生活環境

[産業]…九州経済の特徴、先端技術の活用、九州・山口の農業人材

[対アジア]…外国人労働者の国籍別状況、アジア諸国の少子高齢化

[地域社会]…集中豪雨、生活手段、温泉資源